匝瑳市地区別防災カルテ 地区名:共興地区

1. 対象と	なる町丁区(地	区面積 糸	57. 78km²)			
小字名	世帯総数	総人口	男人口	女人口	1世帯あたり人員	備考
吉崎	252世帯	687人	353人	334人	2.7人/世帯	
長谷	228世帯	703人	343人	360人	3.1人/世帯	1
登戸	13世帯	44人	21人	23人	3.4人/世帯	
西小笹	161世帯	481人	251人	230人	3.0人/世帯	1
東小笹	192世帯	559人	284人	275人	2.9人/世帯	1
						1
						1
						1
						1
						1
						1
合 計	846世帯	2,474人	1,252人	1,222人	2.9人/世帯	住民基本台帳
					•	H26.4.1現在

2.	居住者に	2関する指	標:	児童人口	0歳~14歳	労働人口	15歳~64歳	高齢者人口	65歳以上
地	区	人	П		2,474人	□児童人	□□労働	人口□高	齢者人口
人	. 🗆	密	度	318	.0人/km²	7017	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		дг д , , ,
世	帯	密	度	108.7	世帯/km²				
年	少人口	(児童人	口)	265人	10.7%			10. 7%	
労	働者人□	1 (労働人	. 口)	1,429人	57.8%				
老	年人口	(高齢者人	. 口)	780人	31.5%		31.5%		
総	;	人	П	2,474人				У	
高	齢	化	率		31.5%				
要	接護者	台帳登録	者数	50人		\-		57. 8%	
要	援護者支	· 援者登録	者数	26人		'			
支	援者がいな	い要援護者	が数	26人					
支	援者がいな	い要援護者の	割合		52.0%				

3. 公園					
公園名称	種別	供用面積	公園名称	種別	供用面積

4. 危険箇所、危険物施設の現況:土砂災害警戒区域、急傾斜地崩壊 土砂災害危険箇所、河川・津波浸水被害想定区域・危険物施設等	養危険区域、	
1 津波浸水被害想定区域あり		
2 危険物施設等		
屋外タンク貯蔵所・地下タンク貯蔵所	2箇所	
給油取扱所・一般取扱所	4箇所	
その他:		

5. 避難所・避難場所		
名称	所在地	電話番号
	次避難所)	-
共興小学校(津波避難所)	東小笹1160番地	72-4525
		1 <i>kk</i> =r
14 ☆\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\	指定避難所(一次避難所)数	1箇所
指定避難所(二	次避難所)	
	指定避難所(二次避難所)数	0箇所
指定緊急避		V□//I
11/C/K/INC		
	指定緊急避難場所数	0箇所
	指定緊急避難場所数	0箇列

※全ての「指定避難所(一次避難所)」が「指定緊急避難場所」を兼ねています。

6. 医療機関			
医療機関名	所在地	電話番号	診療科目
城之内医院	東小笹86番地	72-4511	内科・小児科・皮膚科等

7. 3	建物の料		こついては建築年不明を1 数については建築年が判		計
	構造	総数	S56年6月以前	~H12年6月	~H25年3月
	木造	2, 260	780	646	128
非	1-2F	275	133	94	29
木	3-5F	2	0	1	1
造	6F以上	0	0	0	0
	総数	2, 537	913	741	158

時期	事項
H23. 3. 11	東日本大震災 住家 半壊 (5棟) 一部損壊 (86棟)
	上記の内 床下浸水(4棟) 床上浸水(2棟)
	非住家 半壊(1棟) 一部損壊(17棟)
	損壊建物の内、2棟に液状化被害が発生
H23. 9. 21	大雨・洪水・暴風・波浪警報 停電 (西小笹の一部)
H25. 4. 6	暴風・波浪警報 停電(西小笹・東小笹・長谷・吉崎の一部)
H25. 9. 16	台風18号 停電(共興地区の一部)
H25. 10. 15 • 16	台風26号 住家の一部損壊(1棟) 崖崩れ・土砂崩落(1件)
	冠水 (1件)
H26 10 5 • 6	台風18号 床下浸水 (1棟) 停電 (東小笹の一部)

9. 防災上の課題・留意事項等

【防災上の課題】

- 1 共興地区は市の南東に位置し、大部分が平坦地であり、 元禄地震による津波浸水被害想定区域が広範囲に存在す る。日頃から津波に対する避難方法等について確認し、災 害用非常備蓄品を備えておくことが重要である。
- 2 地区内には高台が無く、津波避難ビルに指定できる建物 もないため、津波に対する緊急用の一時避難施設を検討す る必要がある。
- ■3 新川付近においては、津波時に河川が遡上する可能性が ■ あるため、河川流域周辺の住家は特に注意が必要である。
- 4 東日本大震災において、建物の損壊があったため、建物の耐震化・室内における強い揺れへの対策や発災時の避難 行動等について確認しておくことが重要である。

【留意事項等】

- 1 津波避難対策としては、本カルテの裏面図を活用し、あらかじめ津波浸水想定区域の浸水想定箇所を把握し、避難 路や津波避難所までの道順等を確認しておくこと。
- 2 地震震源の位置次第では、揺れからわずか数分で津波が 到達する場合もあるため、地震の揺れがおさまってからす ぐに避難する。なお、災害用備蓄品を備えておく。
- 3 津波は海岸の地形等によって複雑な動きをするため、第 1波より、第2・第3の方が高くなる場合があるため、津 波警報が解除される等、安全が確保されるまでは、海岸付 近等に絶対に近づかない。
- | 4 地震対策としては、昭和56年5月末以前に着工された | 住宅やアパートは耐震性が低い可能性があるため、耐震補 | 強工事を行う。
- 5 室内の地震対策としては、家具に転倒防止器具を取付け 固定することや、ガラスが割れても飛散しない防止フィル ムをガラス面に貼る。
- 6 避難時はヘルメットや頭巾等(ない場合は手荷物やカバン)で頭を保護し、あらかじめ準備した災害用備蓄品を持って履きなれた運動靴で迅速に避難する。

